# 辟雍

HEKIYOU

東京学芸大学辟雍会機関誌

Vol.12
2015

02 在校生と卒業生の新しい交流の場を
辟雍会会長　鷲山恭彦

04 支部頼り

11 東京学芸大学辟雍会沿革

12 卒業生から

24 変わる學藝大学

25 教材植物園の夏

26 平成 27 年度
各部活動報告

28 あとがき

辟雍会
HEKIYOUKAI

# 在校生と卒業生の新しい交流の場を

## 辟雍会会長　鷲山 恭彦

### 秋の全国代表者会議

例年、11 月の小金井祭の時に辟雍会の総会にあたる全国代表者会議を開く。引き続いて恒例の大学との共催イベントを開き、その後に懇親会をしている。問題は、学生たちは学園祭の企画で忙しく、卒業生である全国からの代表者たちと懇談、歓談、交流することが出来にくいことである。

在校生と卒業生との親しい交流は、辟雍会の大きな課題である。それにはどのようなスタイルが可能なのか。

サークルでは在校生が先輩たちを呼んでよく交流会をしている。これをヒントに数年前の6月、ストリートダンスのサークル「アフタービア」の協力を得て、在校生と若い卒業生たちとの交流会を企画した。

### 2011 年 6 月に企画した卒業生交流イベント

この企画は「卒業生交流イベント＜クロス＞」と名付けて、若い卒業生の参加を広く呼び掛けた。ストリートダンスの公演を織り込みながら、卒業生たちの話と交流で大きく盛り上がり、出身の専攻も多彩で全課程から集まった。

「久しぶりに大学に来た。仕事は結構きつい。そん

な中で青葉いっぱいのキャンパスでほっと深呼吸ができる。後輩たちと混じって踊りを見たり、さりげなく話したりしていると、心が元気になり、しなやかに広がるようで、とてもいい。来年もやるなら是非来たい」と話しかけて来た卒業生がいた。開催を知り、一人で参加したという。辟雍会はこうした卒業生の要請にしっかり応えて行かなければならないだろう。

## 2015年5月の「辟雍会大交流会　X "cross"」

こうした経験や希望を踏まえれば、将来、5月31日の開学記念日の前後に、全卒業生・在校生が集まる辟雍会の催しを開くことは、客観的な要請ではなかろうか。そういう夢を描いて、皮切りの集まりとして、5月23日「辟雍会大交流会 X "cross"」を企画した。

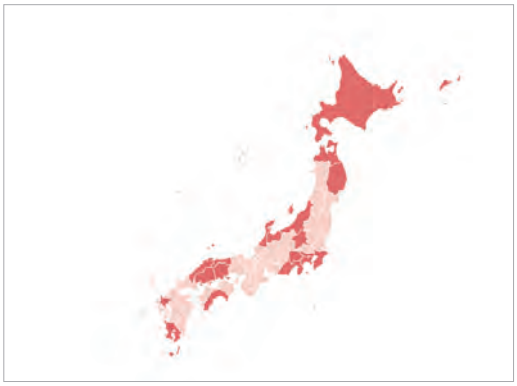
教育現場、表現芸術、ビジネス、ソーシャルセクターなどの多彩な分野で活動している卒業生たちの「教育ショートスピーチ」を中心に、サークルのダンス、パフォーマンス、ゲストショウなど多彩な内容となった。

出口学長をはじめ執行部の先生方も多く出席し、充実した素晴らしい催しと高い評価をいただいた。ただ、出席を希望していた多くの現職教員が学校行事と重なって、出席できなかった。この点を反省すると、最初に催した6月開催が適切かと考えている。

今年の全国代表者会議は10月31日である。それに続くイベントでは、5月の大交流会で好評だった浄土宗・光琳寺、副住職の井上広法さんに仏教講話をいただき、岡本和隆さんをリーダーとする10数名の仲間たちがストリートダンスを披露する。

秋のこの集まりと、青葉の頃の新しい集まりが辟雍会の二大イベントとなれば、私たちの活動も更に高まって行くだろう。その定着が望まれる。

# 支部だより



## 各支部の設立状況

| 番号 | 名称 | 設立年月日 |
|---|---|---|
| 1 | 青森県支部 | 2003.12.07（平成 15） |
| 2 | 石川県支部 | 2005.07.02（平成 17） |
| 3 | 富山県支部「獅子の会」 | 2005.08.22（平成 17） |
| 4 | 岩手県支部 | 2005.10.01（平成 17） |
| 5 | 千葉県（船橋）支部 | 2006.02.25（平成 18） |
| 6 | 島根県支部 | 2006.10.01（平成 18） |
| 7 | 高知県支部「高知辟雍会」 | 2007.06.24（平成 19） |
| 8 | 北海道支部 | 2009.08.01（平成 21） |
| 9 | 岡山県支部「岡山辟雍会」 | 2011.01.29（平成 23） |
| 10 | 鳥取県支部 | 2011.02.27（平成 23） |
| 11 | 静岡県支部 | 2011.03.26（平成 23） |
| 12 | 新潟県支部 | 2011.08.28（平成 23） |
| 13 | 広島県支部「広島辟雍会」 | 2011.10.30（平成 23） |
| 14 | 神奈川県支部 | 2011.11.26（平成 23） |
| 15 | 山梨県支部 | 2012.08.17（平成 24） |
| 16 | 鹿児島県支部 | 2012.10.07（平成 24） |
| 17 | 群馬県支部「群馬辟雍会」 | 2013.07.27（平成 25） |
| 18 | 近畿支部「近畿辟雍会」 | 2013.10.26（平成 25） |
| 19 | 佐賀県支部 | 2014.03.15（平成 26） |
| 20 | 栃木県支部 | 2014.06.15（平成 26） |
| 21 | 熊本県支部 | 2014.10.11（平成 26） |
| 22 | 大分県支部 | 2014.11.08（平成 26） |
| 23 | 埼玉県支部 | 2015.05.31（平成 27） |

## 富山県

富山県の「獅子の会（辟雍会富山県支部）」は、昭和 50 年頃に、親しい仲間数名の不定期な集まりから始まったそうです。その後、平成 2 年に規約と名簿を作成して以来、毎年、総会を開いています。今年度の県内在住の名簿搭載者は 278 名となっています。

この会が発足し継続してきたのは、「人の力」によるところが大きいのではないかと思います。草創期から関わっておられる、元会長の大岩久七先生（昭和 47 年国語科卒）、前会長の石上正純先生（昭和 49 年保健体育科卒）を始め、毎年、案内を作成配付してくださった歴代事務局の方々の努力があったからこそだと思います。「よし、やろう！」と声をかけるリーダーがいて、それに応え、手伝うフォロアーがいらっしゃったからではないでしょうか。がんばっている人の「意気に感じて応援する心」は、私たちが大切にしていかなければならないものの一つだと思います。私たちは、これからも同窓の人の輪を大切にし、少しずつ広げながら、末永く会を育てていきたいと思っています。

獅子の会（辟雍会富山県支部）
事務局　草野 剛（平成 2 年国語科卒）

# 栃木県

## 辟雍会栃木県支部設立総会

日時 : 2014 年 6 月 15 日日曜日 13 時から 16 時 30 分

場所 : 日光「高井屋」

参加者 16 名 : 鷲山恭彦（辟雍会会長元東京学芸大学長）丹伊田敏（辟雍会副会長）柏瀬省五（英語昭 43 卒）佐々木一隆（英語昭 56 卒）佐々木（旧常泉）公美子（数学昭 58 卒）村上真司（国語昭 58 卒）長義夫（数学昭 61 卒）唐木澤厚司（理科昭 62 卒）佐々木信嘉（社会昭 62 卒）久保正彦（数学平 2 卒）大久保容子（保体平 10 卒）鈴木啓介（数学平 14 卒）鈴木康弘（社会平 16 卒）高井（旧鮒池）香奈枝（国際教育日本語平 17 卒）秋山（旧茂木）直道（環境平 17 卒）星雅人（国語平 19 卒）　設立総会、盛会でした！

## 辟雍会栃木県支部平成 27 年度総会

日時 : 2015 年 8 月 2 日 11 時 30 分 -14 時　場所 : チサンホテル宇都宮

参加者 7 名 : 柏瀬省五（英語昭 43 年卒）佐々木一隆（英語昭 56 年卒）村上真司（国語昭 58 年卒）佐々木信嘉（社会昭 62 年卒）久保正彦（数学平 2 年卒）大久保容子（保体平 10 年卒）鈴木啓介（数学平 14 年卒）和やかで楽しい支部総会でした！

# 岩手県

校種や教科の違いがあっても、年に 1 度ぐらいは集まりたいものだと支部を設立したものの、想像以上に調整が難しく、未だに会合を持つことが出来ない有様です。

会員の皆様のご活躍は、メディアを通して知ることが多いのです。各種大会において優秀な成績を収められている諸先輩に追いつきたいという一念で日々努力しております。

学校現場を離れて教育行政の場で日々奮闘されている会員も数多くおります。本当にご苦労様です。

平成 28 年に開催される「希望郷いわて国体　希望郷いわて大会」に向け、準備に忙しいところではありますが、全国の皆様に頂いた多くのご支援に恩返しが出来るように、宮城・福島の人々と、ともに手を取り合って、復興へ向かって力強く歩み始めている姿をご覧いただきたいと思っております。ぜひ、この機会を利用なさって岩手にお越し下さい。

# 北海道

平成21年8月に設立された北海道支部は、「辟雍」に込められた明達諧和な雰囲気を大切にしながら、楽しく有意義な集いを積み重ねておりますが、現在は74名の会員で構成されています。

辟雍会北海道支部の第7回総会及び懇親会が、平成27年8月1日（土）に札幌市中央区のネストホテル札幌駅前で開催されました。

総会では、全国代表者会議報告や支部規約の確認等の後、役員改選が行われましたが、鶴丸泰生会長（S39年卒）が満場一致で再任され、会員間の交流を一層促進していくことを誓い合いました。また、懇親会では、参加者全員による近況報告や、母校の思い出話などでたいへん盛り上がりました。年に一度の集いではありますが、改めて母校の素晴らしさや同窓生相互の想いを感じ合える貴重な時間を共有することができました。

北海道の広域性もあり、参加者数が毎年十数名にとどまっているのが現状ですが、道内在住の卒業生の掘り起こしや交流の輪を広げる工夫とともに、東学大に縁のある方を招聘し、講演会やトークショーを企画するなど、当支部の発展に努めたいと考えております。

辟雍会北海道支部　会長　鶴丸
（事務局担当：中村 雅之）

# 鳥取県

去る1月17日（土）、鳥取市内において、24名の支部会員が出席して、「東京学芸大学鳥取県同窓会」を開催しました。

本会は、鳥取県在住の東京学芸大学卒業生が集まり、会員同士の情報交換を目的に、毎年開催しているもので、今回で26回目を迎えました。

当日は、まず、本会の会長である小谷次男会長が挨拶。その後は、参加者同士、しばし歓談の後、恒例になっている参加者による近況報告会がスタートしました。

報告会では、「最近東京学芸大学を訪れ、自らが見た現在のキャンパスの状況」の報告や、「子どもを連れてきて、自らの近況報告と我が子の紹介」の報告など、様々な報告がなされ、終始和やかな雰囲気の中で情報を交換し、親睦を深めることが出来ました。

本会は、鳥取県の東部、中部、西部地区を持ち回りで開催しており、来年度は、米子市内での開催を予定しております。

# 大分県

## 魅力溢れる「おんせん県おおいた」から新しい風を起こします。

辟雍会大分県支部は、平成26年11月8日、10名の同窓生の参加のもと、公立学校共済組合別府保養所「豊泉荘」にて設立総会を開催し、「辟雍会大分県支部」として産声を上げました。当日は、鷲山恭彦会長並びに小澤一郎広報部長のご臨席を賜り、初めて顔を合わせる同窓生が多い中ではありましたが、大変有意義な交流と懇親の時間を過ごすことができ、盛大に開催できました。

総会では、鷲山会長のご挨拶で、会の趣旨や活動内容を伺い、今後、支部として、どのように活動を広げ、先輩諸氏が築き上げ継承してきた「辟雍会」の伝統をどう引き継ぐべきか等、責任の重さと使命感を感じました。

また、会員紹介や懇親会では、それぞれの卒業後の様子や大学時代のエピソードを交流し合う中で、しだいに和やかなムードになり、是非、また元気に再開できることを約束できる会となりました。他支部の皆様、是非、「おんせん県」においで下さい。

# 神奈川県

## 歴史ある開港の地・神奈川は逞しく歩む！！

★藤川先生（アンデルセン親子童話大賞・ドリーム賞受賞）の講演は、「20世紀からのバトン」楽しかった学校はどこに…、戦前の価値観をも持つ親に育てられ、日本が豊かになっていく時代の思いがいっぱいのお話し。それに伴っての実に意義のある討論会でした。その後に総会を行いました。それから場を変え喉を潤しながらの楽しい和合の会も行いました。今の教育界・社会の状況、これからの会の繁栄について意気投合しました。

★同窓会への期待（返信葉書より）

- 同じ場所で学生時代を送ったという繋がりが、心強く社会に貢献していく力になれるのではと痛感しています。
- 横須賀市で勤務していますが、学大出身者は少ないのでこの会の大切さを思います。
- お互いの専門性が、活かされる会を期待します。　などなど

# 青森県

去る７月26日（日）、八戸市内において、18名の支部会員（総会当日に支部会員になって頂いた６名の先生方を含む）が出席して、「平成２７年度支部総会・懇親会」を開催しました。

総会では「26年度決算（案）、27年度事業計画・予算（案）」が原案通り承認されるとともに、辟雍会本部の会員・会費に係る会則の改正について、報告がありました。

事業計画では、従来、夏季・冬季と年２回開催しておりました支部総会を夏季の年１回とし、冬季は親睦会とすることとしました。これに伴い、現在の支部役員の任期を来年の総会までとすることが承認されております。

また、引き続き行った懇親会には、お茶の水女子大学附属小学校の岡田泰孝先生（昭和６２年Ａ類社会科卒）がゲスト出席。恒例になっております出席者による近況報告を行なうなど、終始和やかな雰囲気の中で情報を交換し、親睦を深めることが出来ました。

冬季の懇親会は、１月初旬に青森市内での開催を予定しております。

東京学芸大学辟雍会青森県支部
事務局長　里村 輝

# 千葉県

千葉支部の石井です。現在千葉支部では、船橋市を中心に活動を続けています。主な活動は、年１回の総会と懇親会です。懇親会では、在籍中の大学のことや現在の仕事のこと、悩みの相談まで、話が尽きません。会員数は、皆さんの努力により、少しずつ増え、千葉市や松戸市、佐原市などに少しずつエリアが広がっています。さらに、管理職を中心とした高校支部との連携も取っていきたいと考えています。会員構成は、退職された先生からフレッシュな若手教員や、企業に勤めている方まで多岐にわたっています。さらなる組織拡大に向けては、皆様からの 情報が不可欠です。卒業生のみなさんは、ぜひ誘い合って入会をお願いします。今年度も千葉支部の石井が幹事長を務めていますので、多くの皆様からの入会希望をお寄せください。

# 静岡県

静岡辟雍会は、発足以来、五年目を迎えました。現在の会員数は81、およそ六割を現職の教員が占めています。現場で活躍している者と一線から退いた者との交流の場にもなっています。

事業の基本は、年一回の総会並びに講演会の開催と会報『静岡辟雍』の発行です。今年度は、8月22日（土）、「静岡県男女共同参画センター」を会場に、総会と講演会を開催しました。総会の締めくくりには、毎年、学生歌「若草萌ゆる」を斉唱します。なつかしさが込み上げてきます。講演会は、学芸大学出身で、現在、静岡県立大学食品栄養科学部の教授として活躍されている新井映子先生を講師にお迎えし、「咀嚼・嚥下から考える食育―噛んで食べることの大切さ―」と題し、お話しいただきました。各世代の興味、関心に合わせたお話に、参加者から独特な質問が飛びだし、会場を沸かせました。

# 島根県

### “縁（えにし）”を紡ぐ

縁結びのパワースポット、昨年の出雲大社大遷宮、そして、今年の松江城国宝決定等話題が途絶えない島根県です。島根県支部の会員数は、現在60名近くとなりました。しかしながら、島根県は東西に長く、「益田と松江の間は県外に行くよりも遠い」、そんな思いが一堂に会するのに一番のネックとなっています。それでも、同じ学び舎を巣立った“縁”を生かし、温かなつながりを持ち続けています。島根県支部の発起当時学生だった世代が島根に帰ってきたり、学芸大卒の教員や社会人の方との新たな出会いがあったりするなど、同窓の“縁”は一歩ずつ広がっています。これからは、社会教育関係に携わる方が多いこと生かして、この“縁”を紡ぐネットワークをさらに広げていきたいと考えています。島根県出身だけど県外で働いておられる方、あるいは県外にお住まい方も、どうぞお気軽にお声をかけてください。連絡をお待ちしています。

# 高知県

高知県内には60名程の学芸大出身者が在住し、年に1回程度懇親会を開催し親睦を深めております。懇親会の案内を郵送させてもらっておりますが、住所宛に届かず返送されるものが多くなりました。また、新しく高知で教員をされている方がいるとの話を聞きます。この「支部だより」のスペースを読まれた方は、是非連絡をいただきたいです。よろしくお願いします。

支部長　宮地彌輔（1973年度卒　D類保体科）TEL：090-5911-5088　メール：m－hirosuke @ miyajigakuen.jp
副支部長　柚村　誠（1977年度卒　D類保体科）
　　宇賀孝篤（1988年度卒　A類保体科）
事務局　　中山泰志（1990年度卒　D類数学科）　TEL：090-4976-9220　メール：k-kobun @ titan.ocn.ne.jp

# 佐賀県

2014年3月に発足しました。
支部人数は、現在は8名（2015年8月現在）です。

構成メンバーは、学校教育関係者が4名、塾経営者1名、マスコミ（テレビ局）4名になります。

マスコミの方々は、県外への転勤が多いので毎年人数が変動することが、我が支部の特徴だと思います。

活動は年に数回支部会を開催し、それぞれの業界の話題に花咲かせながら、佐賀の地酒を飲み交わしています。

現在、山口とドイツにそれぞれ転勤している方々がおり、近況報告をメーリングリストを通じて行っています。

県内に学芸大卒の若者が数名いるとの情報を聞いていますので、活動の一つとして、学芸大卒業生の発掘にも力を入れていきたいと思います。

また、ドイツに転勤しているメンバーが戻って来た際には、佐賀支部の特徴的な活動であります、バルーンによる飛行会も計画していきたいと思います。

# 岡山県

平成27年2月7日、東京学芸大学岡山辟雍会の第5回総会を岡山市の『ホテルグランヴィア岡山』で、21名の参加で開催しました。岡山辟雍会最長老の大熊宏先輩の乾杯で開会し、その後すぐに自己紹介と近況報告を若い方からしていただき、それぞれの熱い思いや繋がりが語られました。久しぶりに「学芸大学・武蔵小金井」の話題に花が咲き、数十年前にタイムスリップしたように感じた方もいらっしゃったようです。大学時代に戻ったようで、年代を超えて集まれる会となりました。

なお、昨年度で定年退職となられた川崎医療福祉大学の長尾憲樹先生と玉野光南高校の竹内仁志先生に、岡山辟雍会より花束を贈呈させていただきました。

最後は東京学芸大学学生歌「若草もゆる」を全員で声高らかに歌い、閉会しました。

## 東京学芸大学辟雍会沿革

2003.11.03（平成 15）「辟雍会（東京学芸大学全国同窓会）」創立
荒尾禎秀会長就任
2003.12.07（平成 15）　青森県支部設立
2005.07.02（平成 17）　石川県支部設立
2005.08.22（平成 17）　富山県支部設立
2005.10.01（平成 17）　岩手県支部設立
2006.02.25（平成 18）　千葉県支部設立
2006.04.01（平成 18）　荒尾禎秀会長再任（2 期目）
2006.10.01（平成 18）　島根県支部設立
2007.06.24（平成 19）　高知県支部設立
2008.04.01（平成 20）　長谷川貞夫会長就任
2009.08.01（平成 21）　北海道支部設立
2009.10.31（平成 21）　東京学芸大学創立 6 0 周年記念シンポジウムを本学と共催
2010.04.01（平成 22）　鷲山恭彦会長就任
2011.01.29（平成 23）　岡山県支部設立
2011.02.27（平成 23）　鳥取県支部設立
2011.03.26（平成 23）　静岡県支部設立
2011.08.28（平成 23）　新潟県支部設立
2011.10.30（平成 23）　広島県支部設立
2011.11.26（平成 23）　神奈川県支部設立
2012.04.01（平成 24）　鷲山恭彦会長再任（2 期目）
2012.08.17（平成 24）　山梨県支部設立
2012.10.07（平成 24）　鹿児島県支部設立
2013.07.27（平成 25）　群馬県支部設立
2013.08.11（平成 25）　中国の留学生同窓会「東京學藝大學留學生北京聚会」参加
2013.10.26（平成 25）　近畿支部設立
2013.11.02（平成 25）　本会を「東京学芸大学辟雍会」と改称
本会創立 10 周年記念祝賀会開催
辟雍会創立 10 周年記念『辟雍』第 10 号発行
2014.03.15（平成 26）　佐賀県支部設立
2014.04.01（平成 26）　鷲山恭彦会長再任（3 期目）
2014.06.15（平成 26）　栃木県支部設立
2014.10.11（平成 26）　熊本県支部設立
2014.11.08（平成 26）　大分県支部設立
2015.05.31（平成 27）　埼玉県支部設立

# 卒業生から 1

## 私は３度、東京学芸大学と出会った

大橋 美香（欧米研究専攻 1997 年卒）

**私は、これまでに３度、東京学芸大学と出会いました。この出会いを通じて、私が感得した学芸大生の強みについて、お話したいと思います。**

### 出会い

私は、国際文化教育課程欧米研究専攻で学び、卒業しました。大学進学にあたって、フランス語等の語学を通じた欧米の社会及び文化を学ぶ進路を模索する中、受験情報誌で学芸大学に出会いました。

期待に溢れて入学したものの、どこかのんびりして突き抜ける勢いを欠いていることに一抹の物足りなさを感じつつ、教育実習など、のびのびと自由に４年間を過ごしました。

卒業した私は、証券会社に就職し、外国債券及び為替のディーリング等を担当し、海外赴任に向けた研修に派遣される等の充実した生活を過ごす中で、司法試験の受験を決めました。

社会を創る「人」の重要性や社会の分析に一定の見識を得ていたものの、社会の仕組み作りについて未熟な状態のまま、曲がりなりにも、プロとして金融商品という法律の塊を扱い続けた経験は、私に法を学ぼう、と決めさせる大きな要因になりました。

### 再会

当時、法務省は司法試験の合格者の出身大学一覧の資料を公表していました。恐る恐る窺いてみると、合格者一覧に「学芸大学　１人」とあるではありませんか。前年、前々年の資料にも「学芸大学　１人」とあります。先人がいるという予想外の事実に、全身が固まるほどの衝撃を受けつつ、力が湧いてくる気持ちでした。

私は、学芸大学から遥か遠く離れたところで決めたことの先で、学芸大学に再会したのです。

これはどういうことなのだろうか。学芸大学とは一体どういう大学なのだろうか。「学芸大学　１人」を見つめながら、大学のこと、同窓生のことを考えずにはいられませんでした。

### ３度目の出会い

弁護士になって数年が経ったころ、ある弁護士が私に向かって、「大橋先生には、本当にいいところがある。自分には絶対に真似できないような、すごいところがある。」と言いました。

その弁護士は、かつて私と一緒に仕事をした人の名前を挙げ、「彼女があれほどに仕事ができるようになるとは思っていなかっ

た。彼女は大変成長した。周囲も本当に驚いている。」と続けました。

彼女が私と一緒に仕事をしたことで予想外の成長を遂げたとの話に、私は驚き、このように視点で評価をして明確に伝えてくれる先輩弁護士の存在に心から感謝すると同時に、これは、時を経て自分自身の中に現れた学芸大学なのかもしれない、と思いました。

彼女は、格段に成長し、多くの人から頼りにされる存在となりました。これは、全て彼女自身が直向きに努力を重ねた結果です。

ただ、仮に、彼女のその変化、彼女の成長について、私が何らか、他人の目にも明らかな作用を及ぼしているとすれば、それは、私の金融に関する知見や法曹としての経験によるものではなく、人の成長や変化を引き出す、教育を専門とする学芸大学で授けられたものに違いなく、私は、「教育」とは、このような形で現れるのかと、不意を突かれる思いでした。

## 学芸大の底力

東京学芸大学は、教育という軸をもち、「人」の活動に係るあらゆる領域を研究対象とすることで、社会におけるあらゆる分野に「人」の成長や変化を引き出すことができる人材を社会に送り出す能力を有しています。それ故、学芸大学の卒業生の活躍分野が、学校教育だけに限定されることは、実に惜しいように感じます。

私は、今日の教育を取り巻く事象について詳しく知るところではなく、議論を展開するには、勉強が不足しています。

ただ、近年の小中学生を対象とする法教育や投資教育への取組み等を考えたとき、教育の素養を持つ人が社会の各分野に存在することで、解決される課題も少なくないのではないかとも思います。

司法試験の合格者にも見られるように、学芸大生は、各人の考えに基づいて志を立て、果敢に挑み、望む結果を実現する決断力を持ち、社会に新たな一歩を刻むポテンシャルを有しています。

加えて、学芸大生が知らず知らずのうちに身につける教育の力、いぶし銀のような勁い力こそが、学芸大生の底力であり、それは生涯に渡り、色褪せない能力として生き続けるものだと思います。

学芸大学では、欧米研究など教養系の専攻が廃止されたことを知りました。このことを聞いて卒業生の１人として願うことは、学芸大で学んだ者が持つ、人の成長や変化を引き出す力を、広く社会で発揮させることで、それぞれの人の持つ長所が生きる、豊かで深みのある将来を育てる大学であり続けて欲しいということです。

そして、辟雍会が教育への想いを抱く人が活動分野を超えて気軽に繋がる交差点、プラットフォームとして発展することを期待し、次なる学芸大学との出会いを信じ、過ごして行きたいと思います。

# 卒業生から 2

## 「チーム学芸」への想い
## －教員の人たちと企業の人たちとの連携－

三浦 將太（株式会社リクルートホールディングス）

### いつでも、どこでも、誰でも、最良の教育を

私が、リクルートという会社で教育の新規事業「受験サプリ」と「勉強サプリ」というサービスに携わってから１年が経過します。このサービスは「学びの解放」をビジョンに掲げ、「いつでも、どこでも、誰でも、最良の教育が受けられる世界」を本気で創ろうとしています。

これは「教育格差是正」への挑戦でもあります。今、日本では７人に１人の子どもが貧困状態にあると言われています。OECD の調査によれば、日本の相対的貧困率は 14.9％。これは OECD 加盟国中、メキシコ、トルコ、アメリカに次いで４番目に高い数字で、アメリカの 17.1％に迫る勢いです。数字だけで見れば、日本という国にも確かに“貧困”という現実があると言えそうです。

### 所得格差が教育格差へ

家庭の所得格差が子どもの教育格差へつながり、やがてその教育格差が子どもの所得格差を引き起こし、そしてその子どもの子どもの教育格差につながっていく…といった負のサイクルがあることは確かなようです（もちろん、単純な循環関係で示すことはできませんが）。

私たちは、このような社会課題に本気で向き合い、格差是正の一助になりたいと思っています。インターネット環境と月額 980 円というお金さえあれば、良質な教育が誰でも受けられる、そんなサービスが「受験サプリ」であり「勉強サプリ」です。

しかし、「インターネット環境すらない家庭はどうするの？」「月額 980 円のお金が払えない家庭は？」このような問いに正面から向き合える打開策・解決策は現状持ち合わせていません。悔しいですが、民間企業だけでは、教育格差の是正という問題を解決するにはとてもじゃないけど力不足です。

## 教員として活躍する旧友たちからのアドバイス

そんなとき、今は教員として活躍する学生時代の旧友たちからたくさんのアドバイスをもらいました。学校や家庭、子どもが本当に求めているサービスは何か、どんな課題に直面しているのか、どうすれば１人でも多くの子どもたちにサービスを届けることができるのか。彼らのアドバイスがきっかけとなり、受験サプリや勉強サプリは学校や行政と連携することで、ネット環境や金銭的余裕のない家庭にも徐々にサービスが届けられるようになってきています。

まさに「教育格差の是正」という大きな社会課題の解決に向けて、“チーム学芸”の仲間たちが連携をして取り組んだ一場面だと思います。

## 我ら、日本の教育の未来を担う者

教育はこの国の未来です。子どもたちの成長・発展のきっかけをつくり、国の豊かさの土台を作っていくのが教育です。日本で一番の教員養成機関である学芸大学の卒業生は、全国各地で教育活動に従事しています。そう考えると、少々大げさな表現かもしれませんが、学芸大学の卒業生が子どもたちの、そして日本の未来を創っていると私は本気で思っています。

学芸大学の卒業生は「教員」以外にも、様々な領域で活躍しています。私のように民間企業に勤め教育サービスを提供している人間もいれば、教育系のNPO法人に勤めている人間、今は民間企業に勤めているけどいずれ教員になろうと思っている人間など、多様な経験を持つ卒業生がたくさんいることに気づきます。

## 多彩な「チーム学芸」を

しかし、卒業生同士の交流はほとんどない状態です。多様な経験を今の学芸大生に伝えられるような接点もほとんどありません。画一的な価値観だけではなく、色々な価値観・バックグラウンドを持った人材が、同じ志を持って教育活動に従事することで、先に挙げた教育格差をはじめとして、多くの課題の解決のきっかけが生まれると思います。そのきっかけとなるような人材交流がないのは大きな機会損失なのではないでしょうか。

日本一の教員養成機関である学芸大学だからこそ、現役学生・卒業生問わず様々な場面で連携し、さらなる教育の課題解決・発展に寄与していく責任があるのではないかと考えています。

様々な領域で活躍する学芸大生が「もっと良い教育環境を整えたい」「よりよい教育にしていきたい」といった共通の志を持って定期的に交流していく機会があればいいなと思います。“チーム学芸”として、共に日本の教育を、そして未来を創っていきたいと思うのです。

卒業生から 3

# 学校現場に活きる大学での学び

葛貫 裕介（日野市立日野第七小学校）

## はじめに

平成 22 年に初等教育教員養成課程理科選修を卒業し、現任校で六年目を迎えました。現在は 1 年生の学級担任をしています。学級担任の仕事内容や校務分掌の内容は年数とともに徐々に分かってきたつもりですが、日々の指導で課題に感じることは初任の頃と変わらず、今もたくさんあります。しかし、子供たちの一生懸命にノートを書く姿、運動会などの行事に全力を出して取り組む姿、達成感に満ちた笑顔が私の活力となっています。また、大きく成長した卒業生に久しぶりに会い、元気に学習や部活に励んでいる様子を聞くと、嬉しさが込み上げてきます。

## 経験が大きな力に

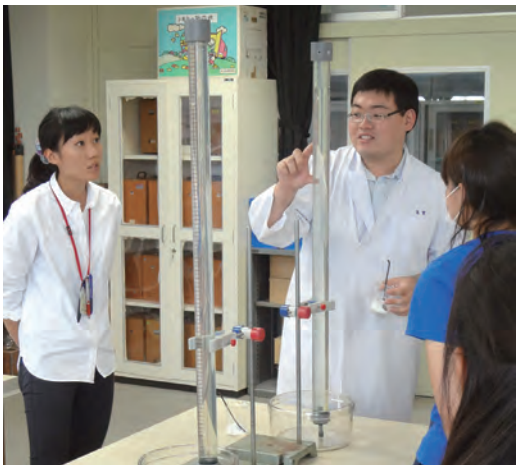
学芸大で過ごした 4 年間は、本当に充実した日々でした。学業、サークル活動、卒業研究、アルバイトや友達との旅行など。教員になった今となっては、学生の自由に使える時間の多さを大変羨ましく感じます。（できるなら、もう一度学生に戻りたい！）その中で卒業研究とサークル活動を通して培ったことは、現在の仕事に活かされています。

卒業研究は、中西研究室で 2 年間行いました。毎週のゼミでは論文紹介や自身の研究成果をプレゼン発表し、問題点や研究の方向性、論理性などを毎回議論し合いました。中西先生のご指導のもと、2 年間の研究活動を通して、論理性や分析力、説明力が培われたと実感しています。これらの力は、現在授業研究や校内研究を進める上で必要不可欠です。同僚の先生に頼りにされるほど、ワードやエクセル、パワーポイントの操作も得意になりました。そして、教員研修や課外授業の補助、研究発表会等、教育実習以外に学校現場に触れる機会を豊富に与えてくださったことにも感謝しています。

4 年間所属した吹奏楽サークル「ウインドアンサンブル」は 100 名近くの大きな団体でした。年 2 回の演奏会実施に向けて、練習日程・予算・ホールとの交渉、宣伝活動など仕事は多岐に渡ります。報連相の徹底や情報の共有、必要事項がきちんと載った資料の準備、そして日頃のコミュニケーションが大切になります。仲間と切磋琢磨し運営を行った経験は、現在校務分掌や行事の企画実施など組織人として仕事を進める上で大いに役立っていると実感しています。

## 地域の理科教育推進

校務に加えて現在力を入れていることが、日野市の理科教育推進です。市教研理科部長を昨年度から務め、問題解決能力の育成や体験活動の充実など、



よりよい理科授業に向けて授業研究活動を実施しています。また、私たち教員が理科・科学の見識を深めることも大事であると考え、企業の科学出前授業や部員同士の教材・実践報告紹介を新たに取り入れました。

さらに、理科部の仲間と教育センターと連携し毎月理科実技研修会を開催しています。直近の学習単元を扱い、参加者と共に予備実験をしながら、細かな指導ポイントの説明をしています。夏季休業期には、毎年日野市の初任者の先生に基本的な実験器具の使用方法、安全指導、問題解決を意識した授業づくりについて指導を行っています。

残念ながら、高校・大学で理科に十分接する機会がなかった先生方もいらっしゃいます。そのため、理科に対する苦手感が少しでも減り、「おもしろい！」「早速子供たちにも教えてあげたい！」と一人でも多くの方に思っていただけるよう毎回内容を吟味し、資料を作成しています。実技研修会といった現職教育は、理科教育の充実を図る上で価値あるものだと考えています。

## おわりに

同窓の多くの仲間が教員として活躍しています。久々に会えば、互いの学級や学校、地域の話になります。仲間の活躍を聞くと励みになり、「自分も負けていられない」とやる気が湧きます。学芸大で学び、幅広い人脈が築けたことは私にとって大きな財産です。これからも子供たちのよりよい成長のために日々精進し、いつの日か何らかの形で学芸大に恩返しができればと思います。

# 卒業生から 4

## ダンス教育の原点は大学の学びにあり

布施 典子（都立大江戸高校）

昭和 58 年 3 月、教育学部保健体育学科 D 類を卒業しました。

幼少より体育の授業が大好きで、保健体育科の教員に憧れ、自分の将来はそれしか考えていなかったので、どうしても学芸大学に入りたいと思っていました。高校時代は剣道部に所属し、日々過酷な稽古で心身ともに鍛えられ、必ず合格してみせると意気込んでいました。また運の良いことに、私たちから共通一次試験（現在のセンター試験）が導入され、合格基準もはっきりわかっておらず、どさくさに紛れて合格したのです。

故 根木冨久子先生のもと舞踊学を専攻し、切磋琢磨した剣道から一転、創作舞踊部に入部しました。もとより人前に立つことが好きでしたし、高校の体育の教員になったらダンスを教えることは必須となると考えたこともあります。

教員になって 32 年になりますが、最近とても（やっと？）ダンスの授業が楽しいと感じています。東京都女子体育連盟でダンス教育の研究や発表会の運営などに携わり、区教委からの依頼で中学校の先生方への講習会なども担わせて頂くうち、学校における授業では、ダンスの技能だけを教えるのではなく、ダンスを通して何かを学ばせることが大切であると実感するようになりました。

リズムにのって踊り、体を開放することはとても楽しいです。現代の若者もメディアを通じて体感しおり、エグザイルのダンスを覚え、家で汗をかくほど踊っている我が息子を見てもそう感じます。しかし学校教育においては、ダンスの振りを覚えるだけでなく、ダンスを使って何を学ぶか、ということが重視されています。創造力・コミュニケーション能力・コラボレーション能力を育て、課題を解決していく力を身に付けさせることです。「体育ではスポーツを学ぶのではなく、教材としてスポーツの要素を活用し、体育の学びを行うのである」という学芸大准教授の鈴木直樹先生の提言（※ 1）にあるよう、学習内容はダンスそのものだけではないのです。

現任校の都立大江戸高校はチャレンジスクールで、ほとんどの生徒が不登校を経験しており、体育も苦手な子が多くいます。赴任当初は、生徒の反応の少なさや活動の乏しさに、少々意気消沈していました。しかし、結果を求めるのではなく、授業内における過程が大切だということを再認識しました。私の問いかけに対してイメージを湧かせ、生徒が少しずつ心を開放し、変化していく姿を「成果」としてとらえるようになり、共に授業を作り上げて行く

感覚がとても楽しくなったのです。

そしてそれは、大学在学中に学んだ舞踊学の中に原点があるとつくづく感じるようになりました。ラバン（※２）の身体動作表現理論では、舞踊を創る際には Weight（力）・Space（空間）・Time（時間）の３つのエフォート要素が必要で、それをそのまま高校生に要求するのは難しいのですが、それに基づいて教師が生徒の活動を見て助言すること、問いかけて引き出すことで、「成果」が生まれると実感しています。また、創作舞踊部で学んだ身体基礎訓練はもとより、即興練習や作品構成技術、伴奏法などを振り返るたびに、私のダンス教育の原点だったと思います。夜遅くまでの舞踊場での伴奏音作りでは、当時パソコンは無く、オープンテープを繋いで重ね録りを繰り返したり、先生や先輩方に何度も作品のダメだしをされ、苦労して作品創作をしたりしたことが、懐かしく思い出されます。

今年度 11 月、「第 49 回全国女子体育研究大会」を東京都女子体育連盟主催で行います。「問いかけから広がる可能性」をテーマに、各発達段階において教

師と生徒の関係性を軸に、「問いかけ」の重要性を研究発表いたします。ダンス教育を通し、自己創造性や自己表現を学ばせ、オリジナルの活動を保障していくことが私たち教師に求められることだと考え、残り少ない教員生活を充実させていければと思います。

※１　鈴木直樹 (2015)「ガラパゴス化する『体育』の扉を開く」女子体育 405 号

※２　ルドルフ・フォン・ラバン（Rudolf von Laban、オーストリア、1879 − 1958）

卒業生から 5

# 私が学んだこと

熊木 崇（町田市教育委員会 統括指導主事）

東京学芸大学を卒業後、すぐに東京都の小学校教員として勤務を始めた。パワーいっぱいの子供たちとの出会いに喜びと期待、そして少し不安も感じた４月であった。そんな中、学年主任の大先輩からご指導をいただいた。「熊木は挨拶がない。」

「おはようございます。ありがとうございます。失礼します。」私は日頃から意識的に挨拶をしてきたつもりであった。もしかして、声が小さかったのかもしれないと思い、より一層元気に挨拶するようにした。しかし、同じ指導を受け続けた。

「挨拶とは何なのか」私が教員として初めて学んだことである。数ヶ月かけて考えた自分なりの結論は「報告・連絡・相談」である。当時の私は、学習指導、学級経営、生活指導、保護者対応などについて、多くのことを先輩方に相談させていただいていた。しかし、相談した結果、どのように対応して、どのような反応があったのか報告をしていなかった。教員として基本的な姿勢を学ぶ機会をくださった大先輩に感謝の気持ちでいっぱいである。

小学校を２校経験した後、開校した青島日本人学校に赴任し、衝撃を受けた。大学の宿舎の一部を間借りした校舎で、校庭、体育館、特別教室、プールはない。それどころか、学校にあったものは、配布

する教科書、子供用の机・椅子、ホワイトボード、コピー機のみである。教材・教具も教師用指導書も何もないのである。

しかし、スタートした以上、後戻りはできない。準備不足を嘆いても何も始まらないのである。与えられた環境の中で何ができるのか、子供たちの学習環境の充実に向けて派遣教員が一致団結して教育活動を進めた。年々、子供たちの人数が増え、教材・教具も充実し、私たちの帰国後には、校庭、体育館、プールがある立派な新校舎が完成した。どんなときも、与えられた環境の中で、精一杯努力する姿勢を今後も大切にしていきたい。

数年後、東京学芸大学教職大学院の一期生として

学ぶ機会をいただいた。課題研究のテーマは「小規模（単学級）小学校における若手教員の育成」である。大規模校で初任者として勤務することができた私にとっては、衝撃であった。当たり前ではあるが、単学級の学校には、隣のクラスがないのである。学習進度、教室掲示、保護者会等、リアルタイムで進んでいるお手本が存在しないのである。アンケートから浮き彫りになったのは、中規模校以上では、若手教員が経験とともに年々指導に自信をもてるようになっているが、小規模校では経験とともに不安を感じる割合が大きくなっていることであった。OJT の視点として、若手教員がリアルタイムで身近なお手本から学ぶ機会を近隣校との連携等で確保していきたい。

その後、指導主事として勤務していたときに東日本大震災が発生した。震災１ヵ月後の４月中旬から下旬にかけて、岩手県大槌町にて支援活動に参加させていただいた。具体的な活動は、学校再開に向けた支援と学校への支援物資の仕分けである。被害が小さかった学校を複数校で使用、また隣町の総合体育館をパーテーションで区切って教室として使用するという学校再開であった。

被災によるショック、将来への不安等、非常に厳しい環境下でも学校再開に力を注ぐのは、子供たちが学校で学ぶことが地元の方の元気の源であり、将来への希望であるからである。今後も、地域の方の活力となる学校づくりに努力していきたい。

卒業生から 6

# 三つの自分

渡邊 大二郎（中央区立月島第一幼稚園）

私が東京学芸大学を卒業してから、7年が経ちました。就職や結婚、子どもの誕生…と、様々な経験を得ることのできた、あっという間の7年間でした。どの経験も、自分という人間の幅を少しずつ広げてくれました。そして29歳の今、自分には大きく分けて3つの側面があります。その三つを紹介することで、感じていることや考えていることをお伝えしたいと思います。

一つ目は、教師としての自分です。私は公立幼稚園の教員で、5歳児クラスの担任をしています。4歳児クラスの時から持ち上がりで担任をしている、とてもパワフルな子どもたちです。子どもたちも私も素直に気持ちを伝え合い、一緒になってより良く、より楽しい生活をつくっていく…そんなクラスを目指して、日々子どもたちと向き合っています。

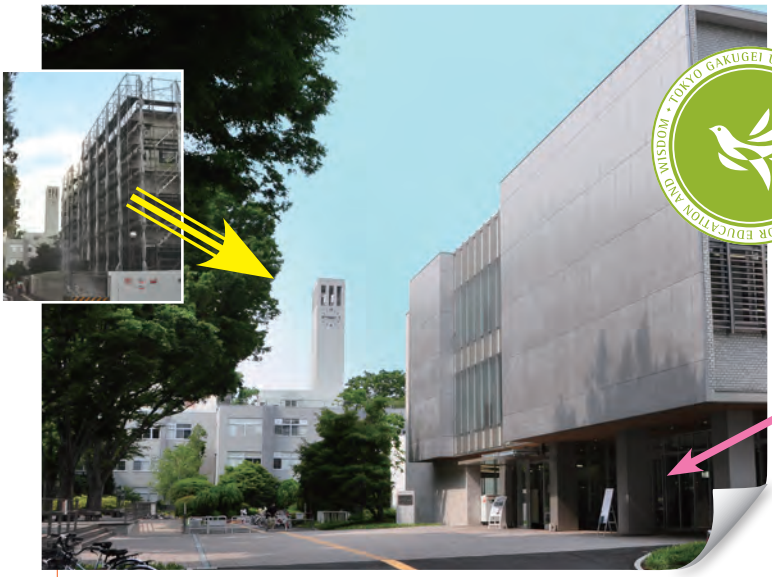
幼稚園教諭の仕事は楽しさも、やりがいも感じることのできる仕事です。子どもたちの心の動き、楽しさやうれしさ、時に悲しさを一緒に感じたり、見守ったりすることができる毎日は、こちらの心も充実させてくれます。上手くいくことばかりではありませんが、目指すクラスつくりに向けて、実践をより深めていければと思っています。ちなみに男性の公立幼稚園教諭はまだまだ少なく、東京全体でも30名前後です。人数は少ないですが、区を越えたネットワークがあります。年に何回か、一同に会する席があるのです。普段ほとんど会うことのない男性の先輩方からの話を聞くことはとても刺激的で、自分の保育を振り返る良い機会となります。これからも、そのつながりは大切にしていきたいです。

二つ目は、夫としての自分。妻は小学校の教員です。共働き家庭なので、保育園へのお迎えは当番制。家事も、育児も、夫婦で協力して取り組んでいます。というより、そうしなければお互いに家庭と仕事を両立させることが難しいのです。慌ただしく過ごす中では、意見が対立して感情的な言い合いになることもあります。要するに、夫婦ゲンカです。すぐに仲直りできる時もあれば、しばらく平行線のままのことも…。いつもいつも上手くいく、という訳にはいきません。それでも、よく話し合うことと、感謝の気持ちを大切にして、これからも同じ方向を向いて歩いていきたいと思っています。

三つ目は、父としての自分です。「おと（お父さんの意）、おかえり！」仕事を終えて家に帰ると、3歳の娘が走って玄関まで迎えに来てくれます。それまで仕事モードだった自分から、一気に家庭モードへ

切り替わる瞬間です。その声を聞くだけで疲れはどこかへ吹き飛び、寝るまでの短い時間を一緒に過ごします。「きょうのおふろは、おとじゃなくておかがよかったナァ…（お父さんでなくて、お母さんと一緒に入りたかったの意）」と言われてショックを受けたり、「おと、ぶどういっしょにたべよ！」と甘えられてデレデレしたり…なんでもないことで心が満たされていく、自分にとっての大切な時間です。「父親として、こう振る舞おう」ということはあまり考えず、一緒に楽しいことをたくさんすることを意識しています。ご飯を食べる、寝る前に絵本を読む、公園やプールに行く…一緒にいろいろなことを楽しむ中で、素直な気持ちを伝え合える親子関係を築いていければと思います。

教師として子どもたちや保護者と向き合う自分、夫としての自分、父としての自分。どれもやりがいがあり過ぎる程の、かけがえのない大切な自分です。いつも全部を 100%…というのは難しいので、たまにはサボったり、寝ていたり、酒を飲んだりします。しかし、どの自分も、投げ出したくはないのです。ゆっくりでも、全部大切にして、一歩一歩進んでいきたいのです。それが今の、私の人生の目標です。



新設！ note cafe

← リニューアルした図書館

# 変わる學藝大

## 学芸大学の教育組織が大きく変わりました

1988年に「教養系」が設置されて以来、学芸大学の学部教育組織は「教育系」と「教養系」の２本の柱で構成されてきました。2015年度カリキュラムからは「現代社会で生じる多様な教育課題に対して、高度な専門的知識に基づく確かな実践力を持ち、諸課題の解決に協働して取り組むためのチームアプローチ力に優れた教育者を育成する」という大学の基本姿勢に対応し、「教育系」は「学校教育系」に、「教養系」は「教育支援系」へと変わりました。この背景には、現代における学習の多様化（目的・所属・国籍・年齢・学習環境・特別支援の必要の有無等）や教育課題の複雑化といったことがあります。こうした時代では、今までのように教員だけで教育課題に取り組むことはできません。学校や教員を助け、支援する「教育支援人材」が必要となります。教育支援系には七つのコースが置かれ専門性を活かして教育支援を行う人材を養成します。一方、「学校教育系」では、日本語教育とものづくり教育の再編や環境教育選修の設置、英語教育や理科教育の定員の増加といった変更を行い、より専門性が高く教育支援人材と協働して現代の多様な問題を解決できる教員の養成を目指しています。詳しくは大学のホームページをご覧下さい。

http://www.u-gakugei.ac.jp/03gakubu/

［文責：広報部 中西 史］

### 平成26年度入学者まで

**教育系**
- A類 初等教育教員養成課程
- B類 中等教育教員養成課程
- C類 特別支援教育教員養成課程
- D類 養護教育教員養成課程

**教養系**
- N類 人間社会科学課程
- K類 国際理解教育課程
- F類 環境総合科学課程
- J類 情報教育課程
- G類 芸術スポーツ文化課程

### 平成27年度入学者から

**学校教育系**
- A類 初等教育教員養成課程
- B類 中等教育教員養成課程
- C類 特別支援教育教員養成課程
- D類 養護教育教員養成課程

**教育支援系**
- E類 教育支援課程
  - 生涯学習コース
  - カウンセリングコース
  - ソーシャルワークコース
  - 多文化共生教育コース
  - 情報教育コース
  - 表現教育コース
  - 生涯スポーツコース

# 教材植物園の夏

小柳 知代（環境教育研究センター 講師）

教材植物園の位置

東京学芸大学の環境教育研究センターには、通称「農園」と呼ばれる教材植物園があります。教材植物園には、畑や水田、果樹園等があり、様々な植物が植えられているため、春夏秋冬、様々な表情を見ることができます。

今回は、「教材植物園の夏」と題して、学生たちが授業の一環で育てた畑の様子や、様々な果樹の実をご紹介します。教材植物園の水田や畑は、F 類環境教育専攻（H27 年度より A 類環境教育選修）の授業だけでなく、学内の様々な授業の中で活用されています。また、地域の子どもや大人たちを対象として環境学習に取り組んでいる団体にも貸し出されており、例えば、小金井市環境市民会議の「田んぼの時間」や同市公民館の公開講座「江戸野菜に親しもう」等、様々な団体の方々が定期的に通いながら活動しています。

学生たちの畑では、トマトやピーマン、ナス、ゴーヤ、トウモロコシ、ズッキーニ、エダマメ、スイカ、カボチャ等、様々な夏野菜が育てられており、班ごとに区画を決めて栽培管理を行っています。授業中に十分に時間が取れなかったり、長期の休みに入ってしまったりして、雑草ばかりが茂ってしまっている場所もありますが…、８月に入ると、収穫のピークがやってきます。

トマト

エダマメ

ブルーベリー

キウイ

他にも、教材植物園内には、様々な果樹が植えられており、この時期は、ブルーベリーの実が美味しそうに色づき始めていました。温室の横には、キウイの棚があり、たくさんの実を付けています。秋学期が始まる頃には収穫の時を迎え、学生実習の中で活用されるかもしれません。教材植物園には、珍しい植物も数多く植えられています。その１つが、アーモンドの木です。広場の正面に位置していて、春にはピンク色の鮮やかな花を咲かせますが、モモやウメに似た花なので（アーモンドはバラ科サクラ属です）、アーモンドの木だということに気づいている人は少ないようです。

アーモンド

春学期の授業が終了し、暑さ厳しい毎日が続く夏の時期、教材植物園に足を運ぶ人の数もいつもより少なめになりますが、植物たちはこの時期、最も勢い良く成長し、春とは全く異なる表情を見せてくれます。春・夏・秋・冬、季節ごとに様々な表情を見せてくれる教材植物園へ、みなさんもぜひ一度足を運んでみてはいかがですか。

# 平成 27 年度 各部活動報告

## 事業部

事業部は、5 月 23 日（土）に「辟雍会大交流会 X"cross"（クロス）」を開催しました。この会は企画・運営すべてを卒業生が中心となって行い、本学の出口学長をはじめ、教職員、現役の学生、卒業生が交流し大変盛り上がりました。今後の活動として、10 月 30 日（土）にホームカミングデーを開催します。本年度第 17 回は仏教プレゼン & 岡本和隆をリーダとするストリートダンスの講演を行います。また「学生キャリア支援事業」として、「かち就 2017」を実施予定です。就職が内定した 4 年生や卒業生が中心になって、3 年生に対して企業への就職希望の学生に就活準備や対策についての指導するものです。さらに通年における会員支援事業として、(1) 法律ゼミ、(2) 現役学生企画による事業への支援、(3) キャンパス環境充実支援事業（大学キャンパスの自然環境の充実を図る事業支援）を行っています。

［文責：事業部長　小森 伸一］

## 総務部

総務部は次の六項目を柱に、全体的な連絡調整を行っています。

1. 全国代表者会議、理事会、幹事会の開催
2. 東京学芸大学との連絡・調整の実施
3. 既存の卒業生組織等との交流（総会・新年会等）
4. 新規会員の入会手続き及び名簿管理業務
5. 機関誌、予算書、決算書、事業計画等の発送
6. 規則等の整備・見直し

設立から10年以上が経過しました。総務部では、会員の皆さまとの連携強化、新規会費納入者の獲得、会則及び規則の見直し等、日々努力を重ねております。

［文責：総務部長　本間 久則］

## 広報部

広報部は次の 3 つを柱に活動しています。

1. 機関誌『辟雍』第 12 号の発行
2. ウェブサイトの管理と充実
3. 広報パンフレットの作成

今年度は昨年に一新した機関誌を引き続き発行。時季を得た内容を会員に届けます。ウェブサイトは昨年の 9 月にリニューアルし、画面が変わりました。現在ニュース事項を中心に活動の様子を紹介しています。広報パンフレットを新たに作成しました。大学の行事等において配付します。

［文責：広報部長　小澤 一郎］

「2015 年第 17 回東京学芸大学ホームカミングデー」のリーフレット

.「かち就 2016」リーフレット

辟雍会の案内ための広報パンフレット

## 会計部

会計部は予算案の作成及び執行を中心に次の活動を行っています。

1. 平成２７年度予算の計画
2. 予算の適正かつ効率的な執行
3. 的確な会計事務処理の実施

平成 27 年度は予算項目に「図書館カフェ設備充実助成金」の事項を新たに設け、附属図書館内に設置された「ノートカフェ」に対し助成を行いました。

会員の皆さまの利活用をお願いします。

［文責：会計部長　佐藤 節夫］

## 組織部

組織部は、本年度も組織拡大事業として次にあげる五項目の事業を行っています。

1. 支部設立事業として、本年度は、埼玉県支部が誕生いたしました。また、宮崎県でも設立に向けた準備会が現地で開催される予定です。さらに、次の候補となっている、山口、香川、福井県の支部設立に向け活動しております。

2. 新入生未入会者及び入学時に未加入の卒業生への入会依頼

本年度も、昨年度に引き続き未加入の新入生への入会依頼を行いました。未加入在学生・卒業生についても、様々な機会を活用して入会を勧め、会員数の増加を図ってまいります。

3. 学生委員との交流事業

本年度は、ホームカミングデーのイベントに合わせて、辟雍会学生委員交流事業の開催を予定しています。

4. 既存支部の総会、会合等への出席

既に多くの支部が設立されており、それらの総会・会合等に積極的に参加して参ります。

5. 卒業・修了予定学生への配布物作成

秋学期の授業終了時期に、「卒業生・修了生のみなさんへ」というタイトルで、印刷物を配布しています。本年度も、特に、支部組織の紹介を通して、各支部への参加の呼び掛けに力を入れて作成し、配布する予定です。

［文責：組織部長　二宮 修治］

ホームカミングデー「講演会」

お花見会「会を盛り上げる和太鼓演奏」

学生委員の交流会

## あとがき

『辟雍』第 12 号をお届けします。今号には広く会員からの投稿記事があります。会員の活躍に刺激を受けて、明日に向かう気持ちも強くなりました。そして各支部からの声もたくさん届きました。全国に散らばる会員がこの機関誌を通じて紙面交流することができれば幸いです。本会の動きはまたウェブサイトも参考になります。本誌やウェブサイトを通じて会員が互いにつながっていくことを願っています。

［小澤 一郎］

# 辟雍

HEKIYOU

Vol.12
2015


【発行人】
鷲山 恭彦

【企画・編集】
小澤 一郎、中西 史、工藤 浩二、金 ミンコン

【協力】
小柳 知代、臼木 信子、赤川 まどか、剱持 龍一、渡邊 桜

【アートディレクション＆デザイン】
金 ミンコン

【表紙デザイン】
八田 さつき

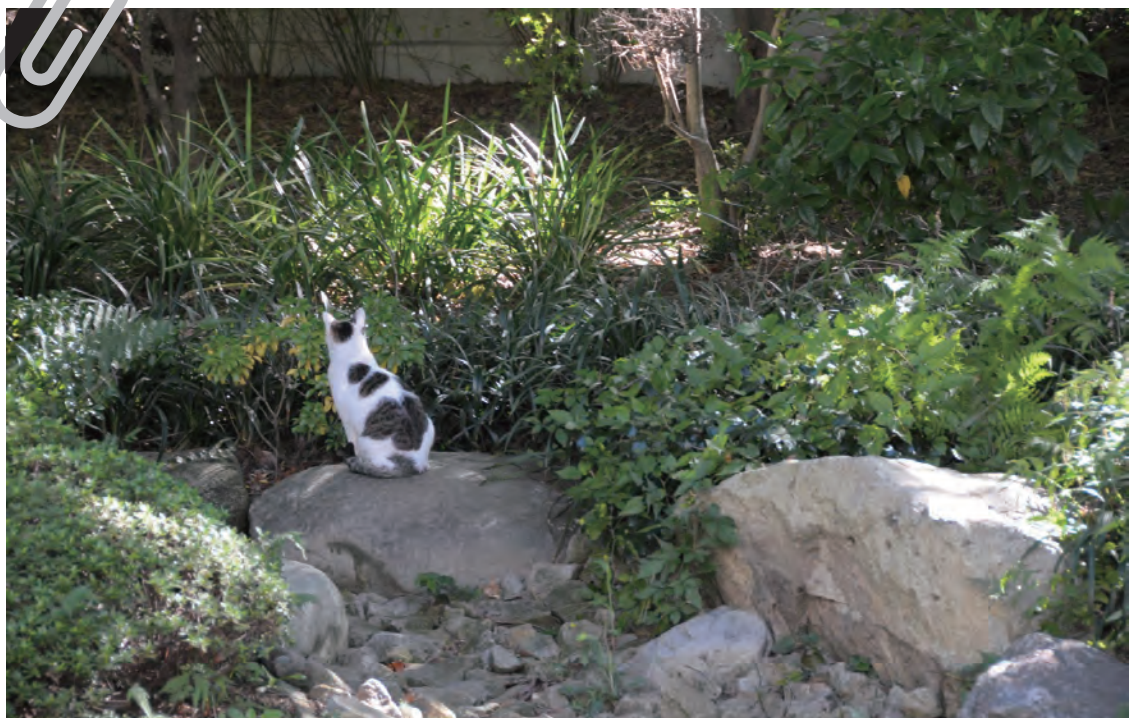
【印刷】
(有) サンプロセス



【お問い合わせ】
東京学芸大学辟雍会
〒 184-8501　東京都小金井市貫井北町 4-1-1
20 周年記念 飯島同窓会館 2 階
TEL ／ FAX　042-321-8820


@hekiyoukai

www.hekiyou.com



秋の学士ネコ「マエ髪」

hekiyou@hekiyou.com

記者クラブに参加したい在学生を募集しています。
以下の項目をメールでお願いします。

① お名前
② 連絡先（メールアドレスと電話番号）
③ 所属と学年

また、辟雍ウェブサイトに記事を投稿したい方！
機関誌「辟雍」に記事など提供したい方もご連絡お待ちしています。

ウェブサイトや機関誌「辟雍」への
ご意見・ご感想もお待ちしております。

辟雍会
HEKIYOUKAI

www.hekiyou.com